

# 第54回白門祭 参加団体総会 配布資料

- 1 第54回白門祭実行委員会方針
- 2 第54回白門祭実行委員会予算案
- 3 白門祭における非公認団体の呼称について

中央大学白門祭実行委員会



はくもっけん

2020年10月19日(月)

中央大学白門祭実行委員会

## **第54回白門祭実行委員会方針**

本年度の白門祭を主催するにあたり、白門祭実行委員会の方針を述べる。

今年は、我々白門祭実行委員会事務局(以下、「白実委」という)が、2000年に主催者団体として公認されてから20年となる。公認化により、白実委は学生の力で白門祭を主催する権利を手に入れたが、その権利が主催者団体としての義務と表裏一体であるということを、我々は忘れてはいけない。白実委の果たすべき義務の例としては、企画全面保障の原則、そして飲酒事故対策が挙げられる。

白門祭では、学生による主体的な企画が行われている。それら企画の一つ一つは、本学学生一人一人の個性を存分に発揮できる数少ない場である。そのような性質を持つ企画を制限することは、学生主導で運営される当学園祭においては可能な限り避けなければならない。

そこで、白実委は企画全面保障という立場をとっている。白実委は長きにわたりその立場を堅持し運営にあたっており、運営団体としての義務を果たしているといえよう。また、第50回から企業協賛を解禁したことにより更なる企画実施の幅を広げ、『文化活動の発露』が可能な機会をより多く提供する。

これまでの白門祭において発生した飲酒事故蓄積の結果として大学より言い渡された「学内禁酒措置」を受けて、第52回の白門祭では「学内飲酒ゼロ」の達成を目指した諸対策を実行した。その結果として、飲酒による事故をゼロとすることができたが、依然として酒類・ノンアルコール飲料の空き缶等が発見されている。

かつて2001年度白門祭において一度禁酒措置がとられたことがあり、白実委はこの事態を深く反省し、自主規制を強化することによって2002年度から2010年度まで泥酔者ゼロを達成することができた。これは学生による自治が正常に機能したことの現れであるといえよう。しかし、2011年度、そして2014年度の白門祭で再び飲酒事故が発生してしまい、2002年度から2014年度まで続いた「酒類提供企画」は学生の自治の範囲外のものとして判断されるに至った。

昨年度に引き続き我々白実委は、「中央大学生の自主性」並びに白門祭の理念に照らして、準備日・白門祭における大学構内での飲酒行為および酒類・ノンアルコール飲料の持込、所持、販売の禁止を徹底するとともに、飲酒に関する学生の自治を回復すべく、安全面に最大限配慮した制度作りについて検討を重ねていく所存である。今年度の白門祭はオンライン開催となり、例年のような構内での飲酒に関する違反への取り締まりは行わないが、委員会内での教育や制度の強化に取り組む所存である。

## I. 理念

我々白実委は白門祭の理念として①『自治・文化活動発露の場』、②『地域に根ざした白門祭』を掲げている。

### ①『自治・文化活動発露の場』

学園祭が目指す目的は多種多様である。白門祭は、過去に学生の表現活動の自由が大きく制約されていた時代があった背景から、その中でもとりわけ学生の自己表現の場となることを第一の目的として誕生した中央大学の学園祭である。『文化活動発露の場』という理念はこの白門祭の存在意義を示すものである。

教育機関という大学の性質上、学術的、文化的な活動が推奨される傾向にあるが、ここにいう『文化活動』とは、学生の表現活動が学術的、文化的なものに限られるということの意味するものではなく、学生がサークルその他の団体の構成員として日々様々な活動を行うことによって獲得したものの総体を指すものと解すべきであり、このような理解から白実委は、企画について原則として『企画全面保障』という立場をとり、学生の自己表現を奨励している。

しかし、自由は無制限であってはならず、それと表裏の関係にある責任を果たすことのできる範囲内で認められるべきである。そこで、白実委は『発露』される『文化活動』が学生自身で責任をとれること、すなわち『自治』の範囲内であることを前提条件としている。

また、学生の自由な自己表現のためには、その発表の場が学生により作られるものでなければならず、学生にその場を管理する責任が発生する。そのため、白門祭は『文化活動』だけでなく、『自治』をも『発露』する場であるといえる。

### ②『地域に根ざした白門祭』

中央大学多摩キャンパスは、その立地条件のためか、学生のみ交流の場となりがちである。しかし、本来の大学とは専門の垣根を越えて多種多様な人間が交流する開かれた場でなければならない。また、我々は学生であると同時に地域社会の一員であり、その地域社会に支えられているからこそ、日々の活動に励むことが出来るのである。

地域の方々との交流は、我々に新たな視座を提供すると共に、地域に根ざした中央大学独自の文化を培う土壌を形成する契機となりうる。それゆえ、我々は地域への還元活動を怠るべきでない。そこで、白門祭を大いに利用し、地域社会への還元活動を行っていききたい。そのため、オンライン開催となった本年度も学外への情宣活動を積極的に行い、オンライン上でも地域社会との交流を図り、地域社会と大学との融合により、白門祭を新たな文化を創出する契機としたいと考えている。オンライン開催となった第54回では、地域の店や保育園などとコラボレーション企画を行い、オンライン上であっても地域に根ざした白門祭を実現するべく検討を重ねている。

## **Ⅱ. 企画およびそれらに関連する諸問題**

### **1. 企画全面保障**

白門祭において企画とは学生の自己表現そのものである。その企画を制限することはすなわち、自己表現を制限することにつながる。そこで白実委は、学生の自主性を尊重し、学生主体の企画について原則として「企画全面保障」の立場をとっている。学生の自由な企画を奨励することで学生同士が互いに影響を与えあい、白門祭のみならず、ひいては学生の日々の研究活動が活性化すれば喜ばしい限りである。

### **2. 宗教企画**

しかし、「企画全面保障」には例外がある。その中でも、白門祭の存在意義に照らして、白実委としては特に学生の主体性が欠如した企画については実施を認めることができない。

その例として宗教企画がある。宗教企画とは、学内外の宗教団体がその布教及び勧誘などを目的とし、企画と称して学生が宗教活動を行うことである。この企画の問題点としては、本来学生の自主的な活動によって行われる白門祭が、宗教団体の意思で動くものになってしまい、学生の主体性が著しく損なわれるという点が挙げられる。

そのため、白実委としては信教の自由の見地から、宗教それ自体の存在意義は尊重しつつも、宗教と過度に結びついた企画については受け入れない所存である。

### **3. 差別企画**

人種差別や性差別、部落差別など差別問題を伴う企画は、他人の利益を侵害する可能性を多分に含んだものであり、事実上の紛争もしくは法的紛争に発展するおそれが極めて高いことから、主催者団体たる白実委としてその実施を認めることはできない。

とはいえ、何を以て差別とするのか、その判断を白実委が行うことは難しい。そこで白実委としては、差別の恐れがある企画に対して抗議団体が現れた際に、企画団体と抗議団体との間に話し合いの場を提供し、両者の仲裁に入り、紛争の円満な解決に全力を尽くす姿勢で臨む。

### **4. いわゆる「ミスコン」と称される企画**

2020年度9月11日付で、中央大学学生部より白実委宛に『白門祭におけるいわゆる「ミスコン」実施について(通知)』という文書が送付された。文書は、『白門祭において、いわゆる「ミスコン」を実施することを認めない。』ことを通知するものである。中央大学公認団体である白実委はこの通知に従い、白門祭におけるいわゆる「ミスコン」と称される企画について、上記2、3の企画同様、開催を認めない。

## 5. 企業協賛企画

企業協賛企画とは「自らの企画を実現する上で企業に対して正当な対価を支払い、金銭・物品などの提供を受ける企画」である。第49回までは企業協賛企画は大きく制限をしていたが、第50回より企業協賛企画の実施を認可した。

企業協賛企画は、企業が学生とかかわることで学生主体の企画ではなく企業の宣伝・営利が主体となってしまうのではという危険性から、1994年の白門祭より自主的に禁止されていた。

確かに企業とのかかわりあいを持つことによって自主性が欠如する危険性を孕んでいることは否定できない。しかし、『自治』を欠如させるような協賛形態は典型的に禁止とし、白実委が協賛の基準を提示することや企画内容と協賛内容を審査することでその危険は排除することが可能である。企業の宣伝・営利が目的となること、企業あるいは学生が不利益を被るような事態が起こらないように白実委内で慎重に制度の構築を行う。今年度は白門祭のオンライン開催という特殊性に鑑みて、企業協賛企画の実施は認めないが、来年度以降は企業協賛企画の認可を行なっていく所存である。

第50回は企業協賛が初年度ということもあり、行うのは物品協賛のみであったが、第51回からは金銭協賛も開始された。これにより企業協賛を利用する企画に更なる厚みが生まれ、白門祭がより質の高いものとなった。

## Ⅲ. 準備日

白門祭の理念である『自治』を貫徹し、白実委が公認された主催団体として白門祭期間中の構内の管理を任されているとするならば、白門祭期間中における大学の24時間開放は当然であると言えよう。しかし、現在、大学は23時で閉門となっている。

ただ、我々には1日だけ大学が24時間開放される日が存在する。それが準備日である。この準備日における大学の終夜開放は、学生の自治の発露・新たな学生の文化創出の為の大学24時間開放を実現する契機でなければならない。なぜなら、大学の24時間開放というのは、学生が自己の権利として、大学の施設を利用するだけでなく、管理するという『自治』の理念に適ったものだからである。

また、夜を徹して議論をしたり、学生相互の交流を深めたりすることにより、新たな視点を得ることが出来ると共に、『文化活動』の活性化を促すものとなるからである。

しかし、2001年度までにおける準備日は、大学中が大宴会の様相を呈していた。そのため、大学側により準備日を含めた白門祭全期間中を禁酒とする措置が執られた。そこで2002年度は、我々が準備日における飲酒禁止という自主規制を行った。その結果、泥酔者を1人も出さないことに成功した。以後、2003年度より2012年度までの10年間、白実委は一貫した立場をとり泥酔者が発生することは無かった。このように、泥酔者を1人も出さなかったという事実が、学生の自主規制によって達成されたことは非常に大きな意味を持つ。しかしながら、飲酒者の存在が未だに確認されていることに鑑み、引き続き「学内飲酒ゼロ」を掲げる白門祭においては、準備日での飲酒を一切許さない対策をもってこの間

題の解決を目指す。

また、2008 年度より準備日では、白実委の実施する企画以外の一般企画受付の実施が可能となった。今後は一般企画に関しては実質本祭と同様の扱いが可能となり、各企画団体に企画を実施する場を提供する機会がさらに増えることになるだろう。今後も試行錯誤を繰り返していくことになると考えられるが、魅力ある準備日にし、白門祭全体をさらに盛り上げていけるよう尽力する所存である。

## **IV. 白門祭の運営費について**

白実委が運営する白門祭にかかる費用につき、2019 年度第 53 回より、以下の通り変更した。

従来白門祭は、大学からの金銭的援助を受けて運営していたが、2020 年度第 54 回白門祭より、白実委の経済的自立に向け、運営費は事務局協賛から得た協賛金と、連盟からの供出金を中心として捻出し、大学からの恒常的な金銭的援助を廃止し、大学からの援助はセーフティネットとして受ける形に変更する。学生自治の体現を掲げる白門祭が名実ともに自立した運営を行う上で経済的自立は大きな一歩であり、今後も財政の透明化、無駄の排除といった委員会内の自浄作用を高めていく所存である。

## **V. 飲酒問題**

2001 年度における大学による学内禁酒措置後の白門祭において、白実委は全日程を原則禁酒とする措置をとった。その結果、我々は「学生の自主規制により泥酔者ゼロ」を 2010 年度まで達成してきた。

白実委は白門祭の理念である『自治・文化活動発露の場』から派生する「企画全面保障」の見地から、飲酒企画において、2005 年度には 7 号館（経済学部棟）の 1 フロアとペDESTリアンデッキ上における特定区画での出店を可能とし、更に 2006 年度にはそのペDESTリアンデッキ上の特定区画の変更を実現することが出来た。これは、白門祭の理念である『自治』の『発露』と見ることが出来るだろう。

しかし、2011 年度に見えない部分での飲酒による事故が発生し、今までの対策では対応できていなかった部分について浮き彫りになった。そして、2014 年度においては泥酔者 7 名そのうち 1 人が救急車で搬送される事態が生じた。その結果、大学から 2 度目の学内禁酒措置が言い渡された。

今年度はオンライン開催となったため、例年のような大学構内での飲酒に関する違反の取り締まりは実施しないが、準備日・白門祭における飲酒に関する『自治』を回復するために、来年度以降の白門祭での取り締まり体制及び規則の策定など、「学内飲酒ゼロ」の達成に向けた取り組みを続ける所存である。

## **VI. 環境対策**

近年の白門祭では、室外企画の飲食模擬店を利用した来場者や学生から、飲食物の空き容器、食べ残しなどが大量のゴミとして廃棄されている。また、そのみならず各企画に使用された物品も、白門祭最終日には大量のゴミとして廃棄されてしまう。そのため、大学構内に常設されているゴミ箱ではその廃棄量に適わず、大学構内におびただしいゴミが散乱する状態となってしまった。これは我々が謳う白門祭における『自治』を損なうものであり、早急な対処が求められた。そこで、2007年度の白門祭期間中より、大学構内に常設されるゴミ箱を封鎖し、白実委の手でゴミを分別回収する「エコステーション」を設置し、2008年度からは「エコ容器」を導入した。これらの導入により、ゴミの構内での散乱状態の是正や参加団体へのエコロジーに対する意識を高めることができた。しかし根本的な課題であるゴミの減量は達成されていない。白実委は、廃棄物の回収・減量に関し、企画団体や来場客と一丸となって問題解決に向け邁進していく所存である。

また、2013年度より廃油回収を開始し、以後継続している。さらなる環境対策を推し進める余地はまだあると思われるので、今後はゴミ以外の環境活動も模索していきたい。

今年度実地開催が実現した場合、リサイクル可能な「エコ容器」を白門祭に再導入する予定であった。オンライン開催となったためこの施策は実現されなかったが、来年度以降の実地開催での導入に向け、業者の選定や制度の設立など、現実的な検討を進めている。

## **VII. ミニオープンキャンパス**

白門祭はその理念からも、広く学外に開かれてなければならない。そこで、例年の白門祭においては、大学との協業により、受験生を対象としたオープンキャンパスを開催していた。今年度はオンライン開催となり、大学との協業が不可能になったため実施は叶わないが、来年以降のよりよいミニオープンキャンパス企画に向け、検討を続ける。

## **VIII. 安全対策**

2010年度末に起こった震災を踏まえ、第45回白門祭では例年の安全対策では対応しきれない場合を考慮し、安全対策の見直しを行った。日本において地震の危険は常に想定しておかなければならないことであるから、今後も人命を第一とする対策を練っていく。

また、近頃学園祭での火災がよく問題となっているように見受けられる。今年度は実地開催がないため実際には行わないが、来年度以降の実地開催での防火対策は昨年度と同様に市販のレンジガードの使用を義務化とし、ガスの取扱いに関してもガスボンベを紐で固定するなどして対策を行う。

2014年度は、白門祭期間中に雨が降り特別の対応を必要とする事態となった。雨天時でも円滑に対応できるよう事前に話し合いを重ね、委員間の連携を深め

ていく。

例年は食中毒対策として、粉ものを提供する団体には、当日分の粉もののタネを自宅で作り、清潔な容器で持参するよう義務付けている。また、当日タネが足りなくなること想定して、混ぜ合わせを行うためのテントを設置している。

今年度はオンライン開催となったため実地開催での安全対策を敷く必要はなくなったが、来年度以降の白門祭を安全に運営するため、例年多く見受けられる危険行為の防止策や、違反の取締方法や罰則の強化といった検討を進めている。

これをもって、第54回白門祭実行委員会方針とする。我々はこの方針を基礎とし、学生が日頃の成果を披露する最良の場となるような白門祭に向けて努力を惜しまない所存である。

白門祭実行委員会委員長	志津田	晴
事務局長	松本	朋大
学術連盟	樋口	祐輔
学芸連盟	山井	瑞基
文化連盟	星野	佑太
体育連盟	宮地	良典
体育同好会連盟	西村	臣史
学友連盟	青井	真人
生活協同組合	岸	将維

以上



第54回事務局予算	
機材購入費	¥ 540,000
機材維持費	¥ 650,000
新白	¥ -
消耗品費	¥ 100,000
トランシーバー	¥ -
レンタカー	¥ -
布団	¥ -
飲酒事故防止課	¥ -
その他	¥ -
合計	¥ 1,290,000

第54回総務部予算	
必携本印刷費	¥ -
インフォ	¥ -
エコ	¥ -
LINE公式アカウント	¥ 11,000
当日用GB	¥ -
車輛課	¥ -
地割	¥ -
装飾	¥ 511
食品衛生課	¥ -
受付業務	¥ 14,880
参加団体総会	¥ -
権利証	¥ -
抽選会	¥ -
物品	¥ -
総務部長	¥ 25,080
見回り業務	¥ -
合計	¥ 51,471

事務局	¥ 1,290,000
総務部	¥ 51,471
企画部	¥ 2,651,740
渉外部	¥ 267,142
編集部	¥ 704,205
局長	¥ 2,500
Web班	¥ 48,480
映像班	¥ 115,252
協賛班	¥ 5,000
デザ研デザイン研究会	¥ 50,000
絵画同好会	¥ -
編成部	¥ -
事業部	¥ 12,969
合計	¥ 5,198,759

第54回企画部予算	
グランドフィナーレ	¥ -
子ども企画	¥ -
前夜祭	¥ -
企画コンテスト	¥ 81,740
中央企画	¥ 2,040,000
新企画	¥ 500,000
映像配信企画	¥ -
テーマソング	¥ 30,000
合計	¥ 2,651,740

第54回渉外部予算	
OC	¥ -
福引	¥ -
出張子ども	¥ -
八王子祭り	¥ -
駅ポスター	¥ 214,940
たまプロ	¥ 10,000
高校予備校情宣	¥ 28,200
駅ビラ	¥ -
Instagram広告	¥ 10,000
子供アート企画	¥ 4,002
合計	¥ 267,142

第54回編集部予算	
ポスター	¥ -
パンフレット	¥ 332,680
本祭ポスター	¥ 172,095
フライヤー	¥ -
フロアマップ	¥ -
イラストレーター	¥ 199,430
合計	¥ 704,205

局長予算	
Googleドライブ維持費	¥ 2,500
合計	¥ 2,500

第54回Web班予算	
雑費	¥ 48,480
合計	¥ 48,480

第54回映像班予算	
雑費	¥ 115,252
合計	¥ 115,252

第54回協賛班予算	
雑費	¥ 5,000
合計	¥ 5,000

第54回デザイン研究会予算	
雑費	¥ 50,000
合計	¥ 50,000

第54回絵画同好会予算	
雑費	¥ -
合計	¥ -

第54回編成部予算	
雑費	¥ -
合計	¥ -

第54回事業部予算	
雑費	¥ 12,969
合計	¥ 12,969

2020年9月1日

白門祭に参加される非公認団体各位

白門祭実行委員会  
委員長 志津田 晴  
事務局長 松本 朋大

## 白門祭における非公認団体の呼称について

平素より当委員会の活動にご理解とご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。白門祭に参加する非公認団体の皆様にご連絡いたします。

中央大学学生部から下記の通知が届きました。今年度、オンライン白門祭に参加する非公認団体は、下記通知の取り決めに従うようお願い申し上げます。

なお、当委員会といたしましては、当該通知内容に疑義の念を抱いており、先日、質問書を中央大学学生部に送付しました。引き続き当委員会は中央大学学生部と協議を進めて参ります。

以上

2020年8月3日

白門祭実行委員会  
委員長 志津田 晴 様

学生部長  
高橋 豊治

白門祭における非公認団体の呼称について（通知）

標記について、学生部委員会において以下の通り決定したので通知します。

1. 決定事項

本学に公認されていない団体（非公認団体）が白門祭に参加する際、中央大学の名称・呼称（中央大学・中大・中央・白門など）を団体名・企画名または企画内容に用いることを認めない。

2. 決定理由

毎年複数の非公認団体が中央大学を名乗り白門祭に参加しているが、これらの団体が公認団体として誤った認識をされている恐れがある。事故やトラブルが起きた際、責任の所在が不明瞭となるなど、危機管理上問題があるため。

以上